

経営比較分析表（平成30年度決算）

宮城県美里町 美里町立南郷病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	5	-	ド	救輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
24,597	2,899	第2種該当	15:1	

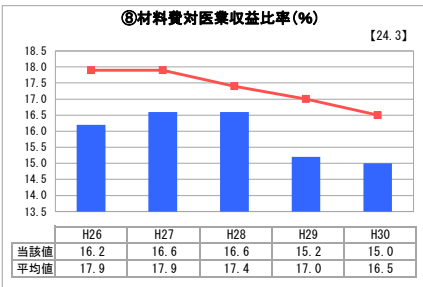
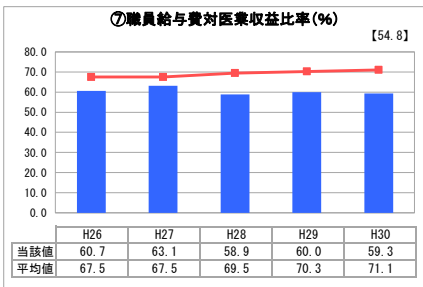
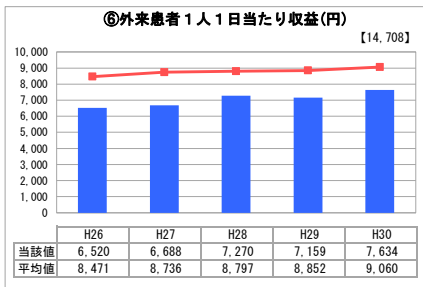
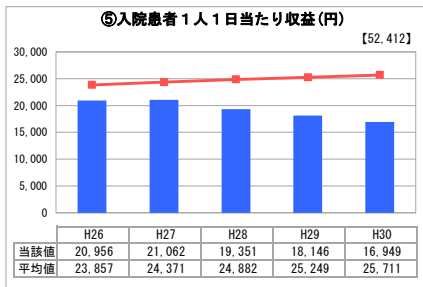
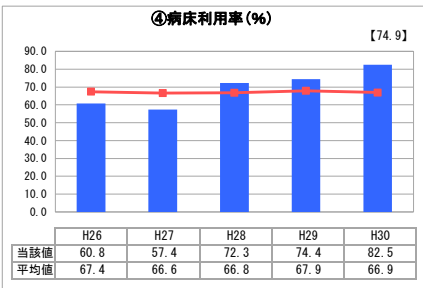
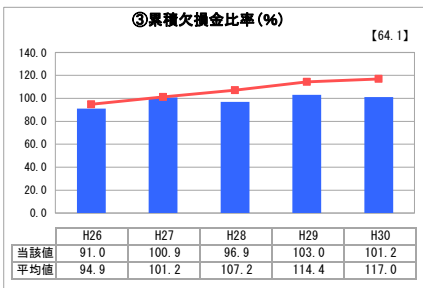
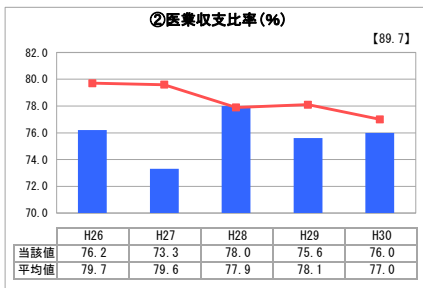
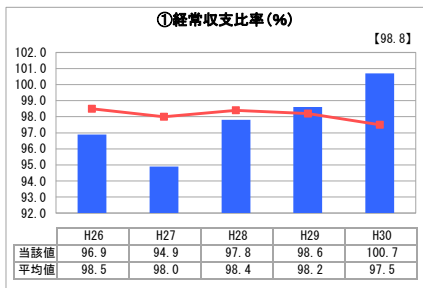
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

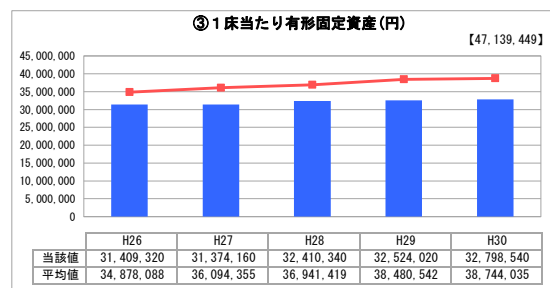
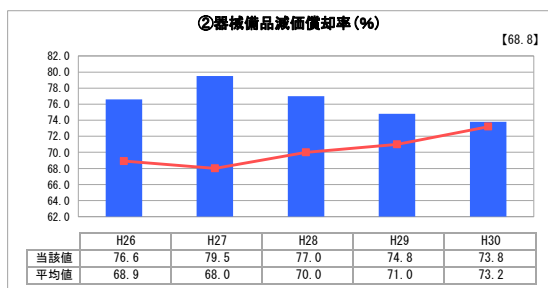
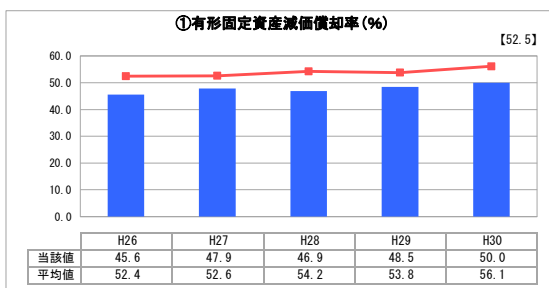
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
45	-	45

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

当院は、旧小牛田町と旧南郷町の合併により、平成18年から美里町立南郷病院と名称を改め、南郷地域（旧南郷町）唯一の医療機関（歯科診療所を除く）として、救急告示病院の役割も担っている。

不採算地区病院の要件第2種を満たす状況にあるが、慢性疾患を抱える高齢者の定期受診や町民を対象とした人間ドック、二次救急までの対応など、地域が必要とされる医療を提供している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

外来収益は前年度より減少したが、入院収益は前年度より増加し、医業収支比率が前年度より0.4ポイント増加している。年延患者数は、前年度と比較して入院患者数は増加、外来患者数は減少という状況であり、患者一人一日当たりの診療収入が入院で減少、外来で増加している。外来患者数の減少については、人口減少など地域の実情が影響しており、不採算地区病院を対象とした一般会計からの繰入金が必要不可欠となっている。

なお、平成30年度収益の収支における一般会計からの繰入金は、前年度より1千万円増の2億円となっている。経常収支比率は、一般会計からの繰入金増額もあって、前年度より上昇が見られ、100%を超える状況となっているが、美里町病院事業新改革プランに基づき、必要に応じて一般会計からの繰入金を弾力的に増額することは必要である。

2. 老朽化の状況について

機械備品減価償却率は、類似病院平均値を超えており、類似病院と比較し、更新が進んでいない状況となっている。

経常収支比率は100%を超えたが、機械備品を含めた施設の老朽化に対して、経常収益では更新費用を賄えない状況である。

病院本体を建設した際の企業債償還が令和6年度までとなり、資本的収支において、資金減少が生じる状況となっているため、一般会計からの繰入金は、美里町病院事業新改革プランに基づき、弾力的な増額が必要となっている。

全体総括

平成30年度の外来患者1人1日当たり収益は、前年度より増加したが、年延外来患者数は平成24年度から平成30年度まで毎年減少している。外来患者減少の原因として確認できたのは、地域の人口減少であり、不採算地区病院としての環境がさらに厳しくなっている。

平成30年度の入院患者1人1日当たり収益は、前年度より減少したが、年延入院患者数は前年度より増加しており、平成30年度の病床利用率は上昇した。医業収支比率がさらに上昇するのは望ましいが、不採算地区病院の要件第2種を満たす状況にあって、収入で支出が賄えず、不足する金額に対しては、一般会計からの繰入金が必要不可欠な状況である。美里町病院事業新改革プランに基づき、必要に応じた弾力的な増額は、今後も必要となる。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。